

FDE クロストーク



テクノロジー × ビジネスで切り拓く、
変革の最前線。

デロイトトーマツでは、自らの専門技術を軸に、多様なプロフェッショナルとの協働や AI 駆動開発を通じて、ビジネス価値の創出に挑む FDE（Forward Deployed Engineer）が活躍しています。FDE として最前線で事業変革に向き合うメンバーが、転職の背景や現場で感じるやりがい、仕事のリアルについて語ります。

プロフィール

S.H (クラウドデータ基盤領域 FDE)

独立系 Sler などではローコード・ノーコード開発の提案からプロジェクトマネジメント・運用保守まで一貫して担当。デロイトトーマツ入社後は、エンタープライズ案件における価値最大化を目指し、広範なアライアンスネットワークや主要プラットフォームを活用した AI 駆動開発・クラウド導入を推進。



N.Y (ERP 領域 FDE)

前職では、ERP 関連プロジェクトの Basis や権限・移行、スクラッチ開発などに従事。アプリケーション・開発の重要性を背景に転職し、現在は基幹システムアップグレード案件や調達領域（サプライヤー選定・リスク評価など）への AI 適用、AI 駆動開発に取り組む。



T.R (人事領域 FDE)

日系パッケージベンダー等にて人事領域のシステム導入や効率化ツール開発を担当。テクノロジーを活用したコンサルティング・新規ビジネスに挑むためデロイトトーマツに入社。Human Capital 部門のエンジニアとして、コンサルタントのドメイン知識と AI エージェントを融合させたプロダクト開発を率いる。



1. 受け身ではなく、ビジネス変革に向けた提案型

S.H：前職ではローコード・ノーコードを中心に、提案から運用保守まで PM として関わっていましたが、デロイトトーマツに来て一番印象的だったのが、圧倒的なスケール感とデリバリーのスピード感です。要件を受け身で受け取るのではなく、私たちはそれを「提案型」でより良い形へと変えていく。新しい技術を恐れずに提案し、アイデアから価値提供までのサイクルをスピーディーに回せるのが、デロイトトーマツの強みだと感じています。

N.Y:S.H さんの言うスピード感に加えて、「倫理観」や「セキュリティ」というカルチャーをすごく大事にしていますよね。単に速いだけだと安全面が疎かになりがちですが、デロイトトーマツには人間による適切なガバナンスや倫理観の裏付けがある。だからこそクライアントから高く評価されて、「速く、安全で、高品質なもの」を提案型で届けることができるのだと感じます。

T.R：単にシステムを導入して終わりではなく、実際にクライアントの業務そのものを変えたり、現場の担当者の方から「仕事の進め方が変わりました」という声を聞ける関係になれるのも、当事者として非常にやりがいを感じます。



2. 専門性の重なりが爆発的なシナジーを生む

N.Y：FDE はジャンルとしてすごく広いですが、根底に「専門性」という軸がないと成立しない仕事だと思うんです。私なら ERP や基幹システム、S.H さんならクラウドやローコード、T.R さんなら人事領域という強みがある。一人ひとりが自分の軸を持ちながら現場で噛み合わさった時に、専門性の重なりがぐっと広がる感覚がありますよね。そういった様々な分野のエンジニアがいることもデロイトトーマツの魅力かなと。

S.H：そうですね。たとえば「基幹システムを刷新したいけど、周辺システムはどうする？」となった時も、縦割りの壁を作るんじゃなくて、「どちらに任せるとよりクライアントに高い価値を提供できるか」をお互いの専門性をぶつけ合って真剣に議論できる。この健全に議論し合えるカルチャーはすごく楽しいですし、他ではあまり見ない魅力の一つだと思います。



T.R：さらに言えば、劇的に進化するテクノロジーに合わせて自分自身の専門領域や役割をどこまでも越境して再定義していけるのも魅力です。個々の軸を持ちつつ線を引きすぎないマインドがあるからこそ、お互いの専門性が合わさった時に大きな相乗効果が出せるんだと思います。

N.Y：実は私も次に、人事領域のプロジェクトに関わる予定なんですが、自分の基幹システムのバックエンド知見と、T.R さんのような人事領域の知見が掛け合わさった時にどんなシームレスな解決策が出せるか楽しみなんです。この互いの領域を重ね合わせてシナジーを起こせる手応えは、やっていて一番面白い部分ですね。

3. テクノロジーでビジネスを進化させる



S.H：デロイトトーマツの FDE の強みを語る上で、戦略を描ける DS（Deployment Strategist）との協働も欠かせません。コンサルティングファームだとパートナー主導で案件が回るイメージもあるかもしれませんが、ここではテクノロジー起点で案件を前に進め、クライアントにとって何が重要か、プロダクトとして何を組織に還元できるかという軸を持って動ける。このマインドが持てるのは大きいと思います。

N.Y：DS との連携は大きな強みですね。多様な専門家がいる中で、DS が現場で定義した改革ポイントや分析モデルに対して、私たち FDE が高速でプロダクトやシステムとして形にしていく。この連携による価値創出はデロイトトーマツだからこそできるスピード感です。

T.R：エンジニア目線では、業務知識の最前線を走るコンサルタントや戦略を描く DS と同じゴールを共有する仲間として動けるのもいいですね。単に指示通り作るのではなく、「なぜ作るのか」という根本から関わりながら、最新テクノロジーを使ってその知見を発展させられるのは FDE ならではのと思います。

S.H：さらに今後、FDE を補完していく役割として、AI ビルダーや AI エージェントマネジャーといった新しい職制や制度設計自体も、私たちが一緒になって作っていきけるフェーズにあります。制度とエンジニアの双方が進化している最中なのも刺激的です。



4. 「人」との関わりで広がる、新たな可能性

S.H：個人的に感じるデロイトトーマツのもうひとつの魅力は、社内の専門家ネットワークの広さです。二重橋オフィスを歩いていると、さまざまな専門性を持つメンバーと気軽に会話でき、各分野の知見に日常的に触れられます。

N.Y：皆さん気さくですね。デロイトトーマツは堅い組織というイメージを持つ方もいるかもしれませんが、実際にはナレッジ共有にとっても前向きです。「今こんな案件で悩んでいて」と話すと、参考になる事例や知見が集まってくる。

T.R：新しいチャレンジも後押ししてくれる文化ですね。Unit 長からも「どんどん新しいことに挑戦して」と言われますし、やりたいことに裁量を持って挑める環境だと実感しています。

